



江戸時代の福岡

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 4大藩の成立と幕藩体制

関ヶ原の戦い後、福岡県域には、筑前・筑後・豊前の各国に、黒田氏・田中氏・細川氏が入部し、3つの藩が成立します。その後、筑後の田中氏が改易されたことで、久留米に有馬氏、柳川に立花氏が入り、概ね4つの藩による統治が、廃藩置県まで行われました。なお、寛永9年（1632）には細川氏の熊本転封に伴い、小笠原氏が小倉に入ります。

各藩主は、それぞれが徳川将軍との主従関係にあり、その承認に基づいて、独自に藩領の支配権を行使していました。また、藩主と家臣の間も知行制による主従関係で結ばれ、家臣団は藩運営の実務を担っていくことになります。なお、家臣に知行（領地）を給付するあり方（地方知行制）は、藩の歳入から米や金銭を給与するあり方（俸禄制）へと変化し、

次第に後者が多くの比率を占めるようになります。

このような支配の仕組みは、17世紀の間は安定し、社会・経済に大きな成長をもたらしますが、18世紀半ば頃になると、成長・変化する社会との矛盾から、次第に動揺を来し、幕府や諸藩では支配体制の再編など、改革による対応を迫られることとなります。それでも変化の波は収まりきれず、さらに幕末期の開国による混乱が拍車をかけ、約260年間続いた幕藩体制も解体を迎えました。

2 地域社会の様子

藩によって支配された地域社会は、「村」や「浦」、「町」という単位で編成されます。村・浦・町の運営は、住民による自治的な組織に担われ、藩の支配に関わる年貢や諸役の納入、法令の遵守なども、村などを単位に、大庄屋・庄屋以下の村役人を通じて実施

されました。藩の支配は、中世以来培われた、村などの自治的な運営を把握し、利用する形で行われたのです（村請制）。このため、江戸時代の村・浦・町では多くの行政文書が作成され、また後世に伝えられました。こうして、検地帳や名寄帳、宗門改帳など、地域の具体的な姿を窺いうる史料を、私たちは目にすることができるようです。

3 櫨と蠟

江戸時代には、様々な商品作物が生産されましたが、櫨蠟は福岡県域諸藩の特産品でした。櫨は、ロウソクや鬢付油の原料となる櫨蠟（木蠟）を取るウルシ科の樹木です。櫨蠟の製品は、生蠟とそれを精製・漂白した白蠟（晒蠟）に分かれます。生蠟は櫨の実を粉にして、蒸して搾り、蠟皿や蠟鉢と呼ばれる型に流し込んで、固化させたものです。白蠟は、固



元和6年(1620)以後の大名配置と主な街道 および現在の市郡境
(直方・秋月・三池は支藩の所在地)

化した生蠟を再度溶かして精製し、天日に晒して漂白しました。

福岡藩では、享保の飢饉後の18世紀中頃より、荒田や川の土手などへの櫨の植樹が奨励され、栽培技術書の普及もあって、以後急速に藩内各地に広まりました。福岡藩や支藩の秋月藩、また久留米藩では、藩による櫨蠟の専売制が実施され、製品の流通を藩が集中的に行うことで、利益の独占が図られました。また小倉藩でも、幕末期に藩営の製蠟所が設置されています。

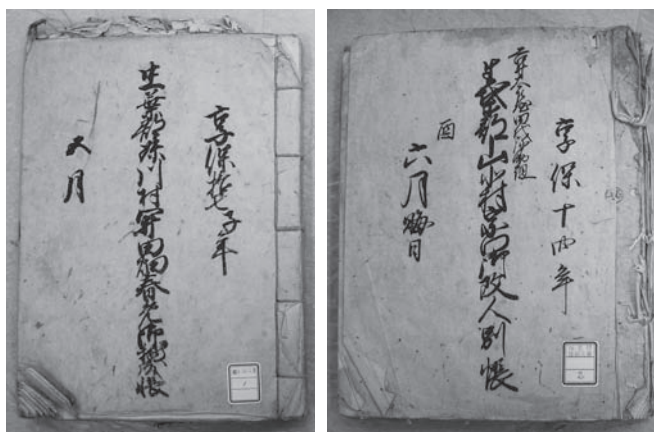
熊谷文書は、現在の朝倉市杷木にあって、18世紀後半から生蠟生産や酒造業を中心に営み、成長してきた熊谷家の史料です。福岡藩による生蠟仕組法＝専売制の運営にも深く関わり、その関係史料のほか、江戸時代から明治・大正期まで、製蠟や酒造、土地関係の帳簿類が連年のように残されています。

4 学問の盛行と地誌の作成

江戸時代は、支配階級の武士から、町人・百姓など庶民に至るまで、幅広い階層で学問が行われた時代でもあります。多くの人々が書物を手にし、出版文化も盛んになりました。

また、幕府や藩による領内把握の手段として、実地調査など実証的な手法で地域の地理や風土、歴史について調べ、著述した地誌が、各地で作成されています。福岡藩では、貝原益軒「筑前国統風土記」を始め、「筑前国統風土記附録」・「筑前国統風土記拾遺」が編纂されます。民間でも「筑前名所図会」や「太宰管内志」などが作られました。また筑後でも「北筑雑稿」や「筑後誌略」、「南筑明覧」など、豊前では「豊前志」が作成されています。

(学芸調査室 一瀬 智)



庄屋の家に残る村政史料

(「生葉郡妹川村開田畑春免御物成帳」 鑓水文書・「生葉郡山北村宗門御改人別帳」 山北村庄屋文書)



貝原益軒 (個人蔵)



熊谷文書の帳簿群



編集 発行:平成23年2月1日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>